

2023 年度 訪問看護質向上委員会 活動報告

■委員名	委員長：田川由香 副委員長(書記)：黒岩美奈子 委員：久保好子 小枝美由紀 信川千賀子 久保処真弓 オブザーバー：岩崎美智子
■開催回数	12 回 (4 月 14 日、5 月 12 日、6 月 9 日、7 月 14 日、8 月 18 日、9 月 8 日、10 月 13 日、11 月 17 日、12 月 15 日、1 月 19 日、2 月 16 日、3 月 15 日)
■活動目標	1. 訪問看護部会ならびに各委員会・ブロック会で課題とされた訪問看護の質向上の内容を精査・検討する。 2. 訪問看護ステーションの標準化を目指し、質の高い訪問看護を提供できるよう、訪問看護ステーションで必要なスキル等の基本的な情報の作成を実施し、ステーションの質の担保を統一する。
■活動内容	1. 訪問看護部会で課題とされた内容ならびに各訪問看護事業所から兵庫県看護協会訪問看護総合支援センターへの質問事項を精査・検討する。 1) 課題とされた内容の理由や根拠を明確にし、内容について精査・検討する。 2) 兵庫県看護協会訪問看護総合支援センターへの質問事項については管理者育成委員会と協働で回答作業を行う。 3) 課題がない場合は、委員会内で検討課題を話し合い看護部会へ提示・提案する。 4) 精査した検討すべき内容は優先順位を決定し、取り組む内容を絞り込む。 ・訪問看護部会より 2023 年 1 月にヘルパーの痰吸引研修終了後の課題についての検討案が出た。痰吸引は、ALS 等の成人難病患者だけでなく、小児の放課後デイや、特別支援学級の小児も含まれるケースが増えてきている現状がある。委員内で話し合った結果、実際はもっとあるのではないだろうか。ヘルパー痰吸引研修自体実施をしていない事業所や地域差がある可能性が高いこと、ヘルパー痰吸引研修終了後の定期的なフォローアップがきちんとされていない可能性があるのではないかと、今後フォローアップ体制を確立していくことが必要ではないかと、との意見から実態を調査することで課題把握をすることとした。調査内容は、研究調査企画書を作成し協議会の承認を得られた後に兵庫県看護協会倫理審査委員会の倫理審査に提出し、10 月末に承認を得た。「介護職員の痰吸引研修終了後の課題及び、訪問看護師によるフォローアップの現状と課題に関する調査」として、会員向けのアンケート調査を 2023 年 12 月 8 日～2024 年 1 月 20 日実施した。方法は、メール配信に二次元バーコードを添付した回答とし、配信数 496 件に対し回答数は 103 件(回答率 20.7%)であった。調査結果は、分析しまとめた内容を 4 月に配信報告予定である。 ・2022 年 10 月に日本在宅医療連合学会第 4 回地域フォーラムにて「多職種向けの新型コロナウイルス感染症フローシート・フローチャート作成の検討」の発表した際に連携ツールの研究発表が多数あり、ICT 化が加速化していることを実感した。コロナ禍以降、訪問看護ステーションが、情報の共有や効率的な連携方法をどのように行っているのか、ICT 化が進んでいると

はいつでも実際にはどの程度なのか、連携ツールとしての活用状況を知りたい、そこから問題・課題がないかを明確にしていきたい、と委員内の意見があり、本年度は研究調査し現状と課題把握をすることとした。調査内容は、研究調査企画書を作成し、協議会の承認を得られた後に兵庫県看護協会倫理審査委員会の倫理審査に提出し、10月末に承認を得た。「訪問看護におけるICTを活用した他機関との情報共有」として、会員向けのアンケート調査を2023年12月8日～2024年1月20日実施した。方法は、メール配信に二次元バーコードを添付した回答とし、配信数496件に対し回答数は130件(回答率26.2%)であった。調査結果は、分析しまとめた内容を4月に配信報告予定である。

・兵庫県看護協会訪問看護総合支援センターへの相談・質問事項が多数あり。2023年2-3月、2023年5-7月に回答作業を行った。

質問事項から、2023年2-3月は、暴力被害、訪問看護計画書、専門管理加算の算定、精神科訪問看護指示書、小児訪問看護の研修、新型コロナウイルス感染症陽性者への対応方法、看多機の指示書等について回答した。2023年5-7月は、機能強化型訪問看護管理療養費3の届けと要件、難病の医療費助成、訪問看護計画書の提出対象、管理者が事業所開設時の情報取得方法・手段、外来と訪問看護でのリハビリ依頼、インシデント報告方法、介護職の医療行為について、新卒看護師を受け入れ研修等について回答した。

2. 訪問看護ステーションの標準化を目指し、質の高い訪問看護を提供できるよう、訪問看護ステーションで必要なスキル等の基本的な情報の作成を実施し、ステーションの質の担保を統一する

1) 作成にあたり、現状把握及び課題について分析し、地域の訪問看護ステーションが活用できる内容とする

2) 訪問看護ステーション連絡協議会のブロック会で必要な情報を得る

3) 専門的な知識や情報についての助言をオブザーバーとしてCNS、CN、有職者等の参加を依頼し、専門家の協力を得る

4) 完成時は、他の委員会と連携し普及を目的とした広報活動を実施する

5) 作成後の活用状況の把握等の客観的評価を行い、今後の普及活動に活かす

6) 作成した内容は、最新情報を参考にしながら定期的に追加修正を図る

・兵庫県訪問看護ステーション連絡協議会ホームページに掲載していた2022年4月13日に改訂した第3版「新型コロナウイルス感染症対応フローシート・フローチャート」の内容修正を委員内で2-4月に検討し、第4版改訂分を掲載予定であった。しかし、5月初旬より感染症の取り扱いが2類より5類へ変更後、陽性者ならびに濃厚接触者への対応方法が変更となった為、修正は見合わせ第3版のままの配信とした。

・前年度に協議会会員を対象に実施したフローシート・フローチャートの活用状況の調査結果は、まとめ直し2022年9月に日本看護学会の学会誌へ投稿した。2023年2月に研究から実践報告へ修正提出し、8月に掲載可との査読結果が届いた。9-11月に2回校正し、演題「効果

	<p>的な新型コロナウイルス感染症対策フローシート・フローチャートの活用の検討―訪問看護アンケート調査の分析―」として、11月末に電子版で掲載配信された。</p>
<p>■活動の評価</p>	<p>兵庫県看護協会訪問看護総合支援センターへ届く質問事項への回答作業は、エビデンスに基づく最新の文献情報を収集するなど時間を要する作業であるが、委員会の中で意見交換し情報共有しながら作成できた。質問内容が変化してきており、現場で抱えている問題や課題、社会背景や地域差など、現状を知る機会となった。</p> <p>前年度の「効果的な新型コロナウイルス感染症対策フローシート・フローチャートの活用の検討―訪問看護アンケート調査の分析―」をまとめて学会への論文投稿したことは、委員会で実施したことを看護職ならびに多職種の方々に活動内容を知ってもらうきっかけとなったと考える。また、今年度新たに「介護職員の痰吸引研修終了後の課題及び、訪問看護師によるフォローアップの現状と課題に関する調査」と「訪問看護におけるICTを活用した他機関との情報共有」の2件のアンケート調査を実施した。調査は、看護の実態を知る手がかりとなり、問題・課題解決に向けて取り組むために重要と考える。現在結果をまとめ作業中であり、今後、会員の方、会員外の方へ報告を発信していただくことは、情報交換・共有、新たな知見を得る機会となり、看護の質向上に対する一助になると考える。</p>
<p>■今後の課題</p>	<p>・「介護職員の痰吸引研修終了後の課題及び、訪問看護師によるフォローアップの現状と課題に関する調査」と「訪問看護におけるICTを活用した他機関との情報共有」のアンケート調査結果を分析中であり、今後内容をまとめ報告していく。調査結果から課題を抽出し、次年度の活動へ反映していきたい。</p>